座間市立入谷小学校　校長室通信　NO.18　　2022.9.5（月）
校長　山﨑　聡子

笑顔いっぱい　かがやく入谷っ子

よりよい出会いを大切に

先日，赤ちゃんの動画を目にしました。赤ちゃんがビデオカメラをじっと見つめていましたが，綺麗な瞳に思わず笑みがこぼれてしまいました。綺麗な瞳というのは，一点の心の曇りのない美しい心がそのままうつしだされている瞳という意味です。誰しもが赤子の時代を経てきていると考えると，純粋な真っすぐな美しい心を全員がもっていると強く思いましたし，子供のもつ力に寄り添っていきたいと改めて思いました。

子供のもつ力に信頼し教育に携わってこられた方の一人である坪田耕三先生に出会ったのは，2007 年。当時，筑波大学附属小学校で教鞭をとられていました。坪田先生の子供たちを見つめる優しい眼差し，一人一人を大切にして展開される温かな授業に心惹かれ，坪田先生のようになりたいと目標をもち，坪田先生の授業を何度も見せていただいたり，御著書を読ませていただいたり，お話を伺ったりしながら学ばせていただきました。坪田先生は,「子供の豊かさに培う共生･共創の学び」を推進されておりました。豊かさは子供自身がもっているという信念をもたれ,「子供の豊かさを培う」でなはく,「子供の豊かさに培う」ということを大切に位置づけておられました。2018 年に坪田先生はお亡くなりになりましたが，坪田先生との出会いを通して私の中で形創られてきた，子供たちを尊重する思いと感謝を根底に据えながら，多様性を生かし合い，子供たちと新たな価値を創り上げることを大切にして，今後も教育活動を推進していきたいと思います。

大きく自分を変える出会いは，大人だけでなく子供たちも同じであると考えます。

８月に参加した教育相談研修講座の中で，講師の先生から，次のようなお話がありました。「子供たちにとって，何が大切なのかを知っている大人に出会うことが重要である」と。講師は，茨城大学名誉教授・福島学院大学客員教授の岸良範先生です。小学校の頃，岸先生御自身が，周囲の期待に応えるいい子を演じていて苦しかったこと，でも，その苦しさを理解してくださった先生が無条件で受け止めてくださり，安心して学校生活を送れるようになったという御自身の経験の中から語られた言葉でした。子供にとって，大人がどのような対応をしたらいいのか，岸先生から温かな視点をいただきました。子供たちが問題行動を起こした際に，注意・叱責・助言・指導をしながらも，問題行動が生み出されてくる過程（事情）を思いやること，身を案じることが大切なこと，なかなか変えることができない子供を責めるのではなく,「こうしなければ，今までやってこれなかったんだなあ」という温かな大人の眼差しが必要であり，叱る以上に，その子の苦しさを理解しようとすることが大切であること，子供の言葉にならない思いに寄り添い，言い訳に耳を傾け，悔しさや実現できなかった思い，こうしたかったという思いを聴き，どうすればよかったかを一緒に考えていくこと。講義から，子供の心に寄り添っていく温かさが子供の成長を支えるということを再確認することができました。

今後の素晴らしい出会いに希望をおきながらも，子供たちにとって安心できる存在になれるよう日々努めていきたいと思います。